



## ▼一般会計決算の状況

区 分	平成30年度	令和元年度
歳 入	1357億1000万円	1381億2200万円
歳 出	1334億1800万円	1356億 700万円
歳入歳出差引 A	22億9200万円	25億1500万円
翌年度繰越額 B	7億2600万円	8億6200万円
<b>実質収支 A-B</b>	<b>15億6600万円</b>	<b>16億5300万円</b>
<b>単年度収支</b>	<b>▲1億 800万円</b>	<b>8700万円</b>

※単年度収支は前年度実質収支との差額となります。

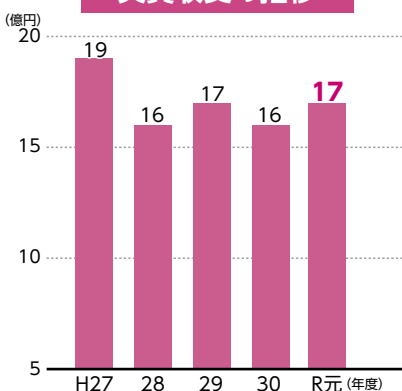
# 令和元年度決算速報値 実質収支は17億円の黒字

◎財政課 ☎841・1311、☎841・3039

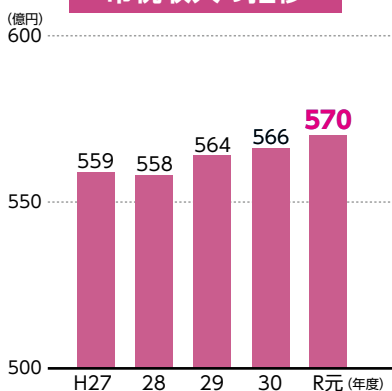
令和元年度一般会計の決算見込みがまとまりました。歳入では、市税などが増加し、歳出では、人件費や公債費は減少したものの、国の幼児教育・保育の無償化などにより扶助費が増加しました。このほか、総合文化芸術センターの

整備や香里ヶ丘図書館と香里ヶ丘中央公園の一体整備などの投資的事業にも取り組みました。自治体の決算を表す実質収支は17億円の黒字となり、単年度収支では9千万円の黒字となりました。

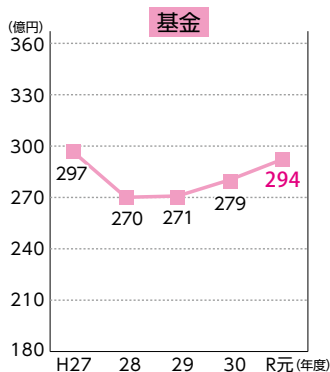
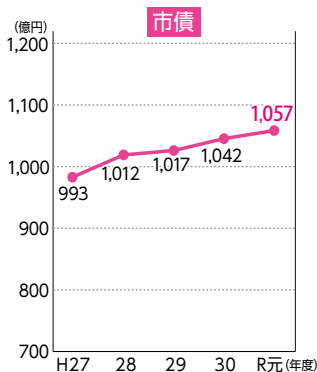
### 実質収支の推移



### 市税収入の推移

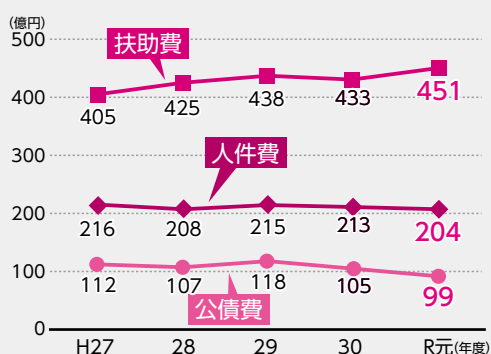


### 普通会計の市債・基金現在高の推移



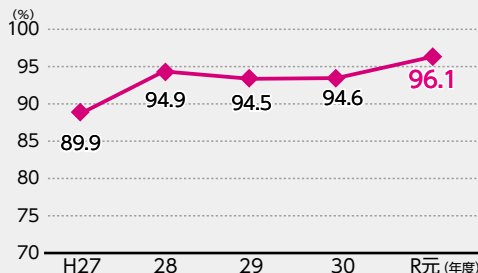
**市債残高は15億円の増加**  
市債とは、多額の経費が必要な建設事業の単年度の負担を軽減し、計画的な財政運営を行うために国や銀行等から借りるお金のことです。このほか、地方交付税の不足分を補うための臨時財政対策債という借入金があります。  
令和元年度末の市債現在高は、2億6千万円の繰上償還を実施したものの、前年度に比べて15億円の増加となりました。また、令和元年度末の基金現在高は15億円の増加となりました。

### 普通会計の人件費・扶助費・公債費の推移



### 経常収支比率の推移

財政の弾力性を示す財政指標。数値が低くなるほど自由に使えるお金が増えることを示しています。



※決算の詳細は広報ひらかた10月号でお知らせします。

6月  
定例会  
議会

補正予算案や  
人事案件などが可決

令和2年6月定例会が6月26日に終了しました（6月12日の審議結果は7月号に掲載）。26日の本会議では、新型コロナウイルス感染症対策として、不安を抱える妊婦への分娩前ウイルス検査事業費などを含む一般会計補正予算案などが可決されました。人事案件

では、農業委員会委員に14人（31ページ参照）を任命することに同意がありました。また、公平委員会委員に東幸生氏、固定資産評価審査委員会委員に小野範夫氏を選任することに同意がありました。  
☎市議会事務局 ☎841・1528、☎841・0240

生涯学習推進審議会  
市民委員を募集

生涯学習施策の総合的な推進に関することなどを調査・審議する機関。広く市民の意見を聴取するため、市民委員を募集します。▼  
対象など 市他の審議会などの委員を務めていない市内在住・在職・在学の20歳以上の人で、生涯学習や自治会などの地域活動歴がある人を2人。任期は委嘱日から2年間。審議会は原則平日に年1回程度開催。報酬は日額9500円。▼申込 8月1日から文化生涯学習課にある申込書（募集要項

とともに市ホームページから取り出し可）と「生涯学習を推進するために、私が必要だと考えること」をテーマにした小論文（800字程度）を8月3日～14日と同課へ。郵送（〒573-8666市文化生涯学習課）・電子メール可。8月14日必着。面接（9月1日（火）予定）あり。  
☎文化生涯学習課 ☎841・1409、☎841・1278、  
✉bunshin@city.hirakata.  
osaka.jp

千葉議員が逝去

枚方市議会議員の千葉清司氏（80歳）が7月12日逝去されました。千葉氏は、平成7年初当選以来、7期市議会議員として活躍され、この間、監査委員、文教・厚生・建設の各常任委員長などを歴任され、市政の発展に尽くされました。ここに故人の功績を称え、謹ん

で哀悼の意を表しますとともに、ご冥福をお祈りいたします。



伏見市長の情熱日記



台風シーズンに備えて

全国で記録的な大雨となった「令和2年7月豪雨」。河川の氾濫など、大きな爪跡を残しました。特に熊本県では観測史上最大の降水量となり、一級河川の球磨川が氾濫し甚大な被害となりました。被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興をお祈りします。かつては淀川流域でも大きな被害をもたらす洪水が頻発に発生しており、明治18年には、梅雨の長雨で伊加賀を皮切りに堤防が次々と決壊。府内で家屋の浸水7万戸、被災者30万人の大水害となりました。これを契機に淀川の改良工事が行われ、今では洪

水の危険性は下がり、決壊することはないと考える人もいられるかもしれません。しかし、昨今は想定を上回る災害が多発しており、淀川であっても安全とは言い切れず、常に最悪のシナリオを想定しなければなりません。

災害の種類や住んでいる地域により最適な避難行動は異なります。地域にどのような危険性があるのかを事前に枚方市防災マップで確認し、適切な行動につなげてください。

事前準備がなければ命にかかわります。「自分の命は自分で守る、家族の命は家族で守る」。改めて災害時の行動を確認し、災害に備えましょう。